

日本

家計調査報告 (2021年9月)

新規感染者数が減少するなか、消費は5カ月ぶりに増加

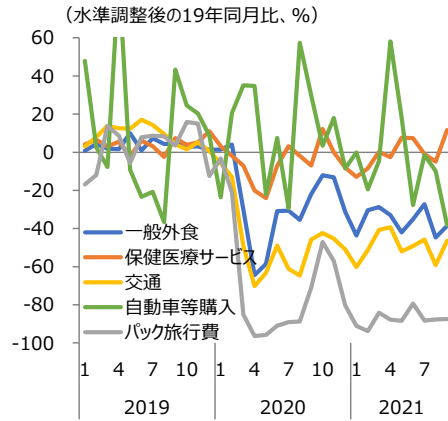
政策・経済センター
田中康就
03-6858-2717

1 実質消費支出 (季調値)



注：二人以上の世帯。
出所：総務省「家計調査報告」

2 品目別消費



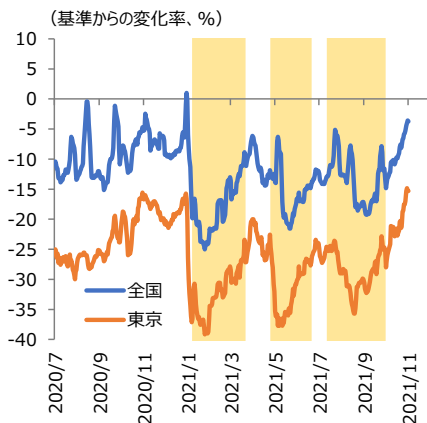
注：名目。二人以上の世帯。
出所：総務省「家計調査報告」

評価ポイント

今回の結果

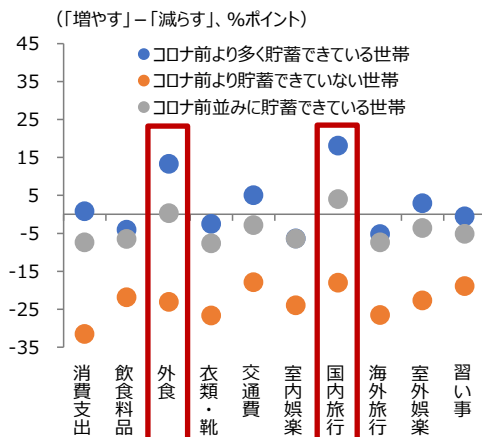
- 21年9月の実質消費支出（二人以上の世帯）は、季調済前月比+5.0%と5カ月ぶりに増加に転じた（図表1）。一方、21年7-9月期の実質消費支出は、季調済前期比▲4.7%と、20年5月～8月にかけて減少が続いたことから、消費税増税後に落ち込んだ19年10-12月期以来の大幅な減少となった。
- 21年9月の名目消費支出を品目別に見ると、新規感染者数が減少するなか、一般外食（季調済前月比▲38.6%）、交通（同▲46.5%）でコロナ危機前からの落ち込み幅が縮小した。また、保健医療サービス（同+11.6%）が増加に転じた（図表2）。
- 一方、バック旅行（同▲87.5%）は大きく落ち込んだ状況が続いた。部品・半導体不足を背景に、自動車メーカー各社が減産を余儀なくされていることから、自動車等購入（38.1%）も減少幅が大きかった。

3 外出動向 (小売・娯楽)



注：後方7日移動平均。直近は21年11月1日。
黄色い網掛けは緊急事態宣言の発令時期を示す。
出所：Google「COVID-19 Community Mobility Reports」より三菱総合研究所作成

4 今後半年程度の消費意向



注：現在と比較した消費意向。
出所：三菱総合研究所「生活者市場予測システム (mif)」アンケート調査（10月15-17日に実施、回答者5,000人）

基調判断と今後の流れ

- 消費は、外出関連を中心に持ち直している。
- 先行きの消費は、外出関連の消費を中心に改善傾向が続くと予想する。緊急事態宣言が解除された10月以降、小売・娯楽への外出は、平時からの抑制度合いが縮小している（図表3）。外出関連の消費も増加している模様だ。
- 過剰貯蓄も、今後の消費を押し上げる可能性が高い。21年4-6月期時点で、家計の過剰貯蓄は約43兆円に上る。当社が10月に実施したアンケート調査では、家計は過剰貯蓄のうち4割弱を消費に回すと回答した。また、過剰貯蓄が積み上がった家計は、今後半年程度、消費を現在よりも増やす意向である。特に、外食や国内旅行に対する潜在的な需要は強い（図表4）。
- 先行きのリスクは、①冬場にかけて感染が急拡大し、経済活動の抑制が再強化されて消費が落ち込むことや、②電力不足の長期化などを背景に中国経済が急減速し、輸出産業を中心に雇用・所得環境が悪化することが挙げられる。